

令和元年度努力点最終報告① [A・Bチーム]

令和2年 3月10日

「努力点目標」

なかまと学ぶ上名の子

— 「なかまなビジョン」の実現を目指した授業改善を通して—

「努力点中間報告」でお伝えした通り、本年度は、名古屋市が目指す授業「なかまなビジョン」に記された学習過程を大切にしながら、なかまと学ぶ児童を育てるために、4つのチームで授業研究を進めました。今回の「努力点最終報告」では、各チームの後期取り組みと来年度に向けた課題についてお知らせします。

[Aチームの取り組みの様子] [「自分の考えをもつ」→「対話する」のつなげ方の工夫]



体育の「フラッグフットボール」の単元では、今まで身につけた「ランとパス」を組み合わせ、何度もゲームを試しました。グループが得点するために、一人一人がどのような役割をするのか考えをもち、活発に話し合いました。よりよい考えをもたせるために、今までの「工夫した動き」を記入したワークシートを活用したり、ホワイトボードを使って作戦会議の場を設けたりしました。短時間ゲームの中で何度も動きを試しながら対話を重ねていました。

《(6-2 体育)の授業の様子》

[Aチームの取り組みの様子] [「めあてをつかむ」→「考えをもつ」のつなげ方の工夫]



体育の「キックベースボール」の単元では、チームで話し合い、自分たちに合った「守る作戦」を考えました。前時のゲームを振り返り、自分たちに合った作戦を考えることがめあてになります。めあてをつかみやすいように、今まで出た作戦を大きく掲示したり、低学年でも考えをもちやすいように、親しみやすい作戦名をつけたりしました。ゲームでは、「作戦」を実行しようと、お互いに声を掛け合って、終始温かい雰囲気の中、ゲームを楽しむ姿が見られました。

《(2-2 体育)の授業の様子》

[今年度のまとめと来年度に向けた課題]

〈成果〉

- ・ 1学期から、スピーチをしたり対話のルールを学んだりして「互いを認め合う学級の雰囲気づくり」に努め、対話が活発に行われる姿が多く見られるようになりました。
- ・ 「めあてをもつ」「自分の考えをもつ」「対話する」「振り返る」という学習の流れが、つながりをもって、単元や授業の中で何度も繰り返されることで、子どもたちの対話の質が高まってきました。

〈課題〉

- ・ めあてに合った「振り返り」をしっかりと、そこで生まれた新たな気付きや課題を、次時の「めあて」につなげ、主体的な学びに導いていけるよう、更なる授業改善を目指したいと思います。

【Bチームの取り組みの様子】 【「自分の考えをもつ」→「対話する」のつなげ方の工夫】



《(4-1 国語)の授業の様子》

4年生では、学習を通して印象に残った場面を基に、一人ひとりが物語「ごんぎつね」のサブタイトルを考える授業を行いました。子どもたちはグループの仲間と、それぞれが考えたサブタイトルについて話し合う活動を通して、人によって感じ方や考え方に違いがあることに気づき、物語をさらに深く味わうことができました。ハンドサインによる意思表示や、付箋の活用の仕方など、話し合いを進めるための学習基盤をしっかりと定着させることの重要性も、あわせて再確認することができました。

【Bチームの取り組みの様子】 【「めあてをつかむ」→「考えをもつ」のつなげ方の工夫】



《(たんぽぽ 書写)の授業の様子》

「書きたい言葉を発表しよう」というめあてをもって、書道の授業に取り組みました。それぞれの子が書きたい言葉を発表する場面では、話形にのっとって発表をしたり、友達の発表の仕方を真似したり、発表が苦手な子は指で指したりと、自分なりの方法で友達に伝えることができました。書きたい言葉を自分で選んだことで、子どもたちの「書く活動」に対する集中力も高まり、どの子もいきいきとした作品を完成させることができました。

【今年度のまとめと来年度に向けた課題】

〈成果〉

- ・「なかまなビジョン」に沿った学習過程にすることで、学年や教科が異なっても「子どもたちが生きる授業」を構築していくことができました。
- ・「考えをもつ」から「対話する」につなげる部分を、それぞれの発達段階に応じて工夫をしたことで、日頃の授業でも意識的に取り入れることができるようになりました。

〈課題〉

- ・低・中・高・特別支援と、子どもたちの発達段階や実態が異なるので、「学習基盤」や「対話」のとらえ方を一律にするのではなく、ベースとなる部分をしっかりと確認・共有しながら授業を組み立てることを大切にして実践を進めていきたいと思います。